

新しい蓮田の未来を創ります！

市民クラブ未来 蓮田市議会報告

はたくにお 一般質問

今議会では「公共施設等の管理計画について」一般質問を行いました。市には多くの公共施設（市庁舎等）やインフラ施設（上下水道施設や道路・橋りょう等）があります。高度成長時代に道路や橋りょうといった多くのインフラ資産が整備されました。また、昭和50年代には人口急増により小・中学校が多く新設されました。整備されてから既に30年から40年が経過している公共施設も多いことから老朽化が目立ち、厳しい財政状況の中で、近い将来一斉に更新時期を迎えることが予想されます。これらに対応するため、市では今後30年間を対象とした「蓮田市公共施設等総合管理計画」（以下、「管理計画」といいます。）を平成28年度に策定しました。令和2年度にはその後の10年間の具体的計画の推進のために「蓮田市公共施設個別施設計画」を作成し、同時に管理計画の一部見直しも行いました。一方で、昨今の物価の大幅上昇は建築工事費にも波及し、現在進めている市の建設計画にも大きく影響を及ぼしています。そこで一般質問では、市の公共施設の管理計画の問題点や課題等について明らかにするとともに、今後の取り組みの強化を促しました。以下は、それらをまとめたものです。

1.人口の推移を十分に考慮するとともに、市民ニーズを適切に把握するためこまめな調査が必要

人口構造は市の基本政策の根本をなすものであり、今後の推移は適切な施策立案には非常に重要なファクターです。令和2年について市の推計値を比較すると、国勢調査結果は、**老年人口が大幅に上回り、逆に年少人口が大きく下回った状況です**（第1表の①）。年少人口については、足元を見ると更にその差は大きくなっている状況と思われます。公共施設等の在り方の検討には、これからの市の**人口構造の適切な認識が重要**であり、また**市民の要望を計画に適切に活かしていくためには、こまめなアンケート調査等が必要**と提案しました。

第1表 蓮田市の年齢区分別の人口の推移 (単位:人)

年齢区分	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)		令和2年と 平成27年の差			
	国勢調査 (A)	市推計値 (B)	国勢調査 (C)	推計誤差 ①=(C)-(B)	市推計値 ②=(B)-(A)	国勢調査 ③=(C)-(A)	
合計	62,380	61,797	61,499	-298	-0.5%	-583	-881
① 老年人口(65歳以上)	18,290	19,439	19,902	463	2.4%	1,149	1,612
② 生産年齢人口(15~64歳)	36,750	35,028	34,826	-202	-0.6%	-1,722	-1,924
③ 年少人口(15歳未満)	7,265	7,330	6,739	-591	-8.1%	65	-526

2.昨今の建設価格の上昇をきちんと認識することが重要

基本計画で使用している単価は国からの単価の指示があったもので、**実際に工事を発注する段階ではかなりの工事費の上昇**となります（第2表）。その状況を正しく把握した上で今後の計画を適切なものにする必要があることから、**価格上昇の実態を適切に認識することを求めました**。

第2表 平成28年度と最近の工事費・単価の比較

項目	管理計画等での状況 (平成28年度) (A)	最近の計画等での状況 (B)	上昇率 (B)/(A)
市町村平均建築工事単価(国交省公表)	290,033円/㎡	366,111円/㎡(令和4年度)	約3割
① ハルシー大規模改修工事費(蓮田市)	約14億円	約20億円(向上)	約4割
② 一般道路の維持補修単価(蓮田市)	4,700円/㎡	8,100円/㎡(令和2年度)	約7割
③ 橋りょうの更新単価(蓮田市)	448,000円/㎡	630,000円/㎡(令和3年度)	約4割

(注①②③:管理計画策定(A)に際しては、国から各単価が示され、工事費はそれらに基づき計算されたものです。)

3.管理計画における財源不足問題

管理計画によると、公共施設等の維持管理に要する財源は、長寿命化改修(注)等で費用を縮減するとしても、**令和3年度から10年間で約75億円、30年間で約244億円が不足**としています（第3表の②）。不足分については補助金等も活用していますが、かなりの市の負担は免れません。加えて**新たな建築計画もあり、今でも厳しい財政状況が一層厳しいもの**になります。**これらによる財政の圧迫が市民生活に対し極大影響が出ないよう求めました**。

第3表 令和3年度以降の公共施設等の維持管理・更新に係る経費の見込み

令和3年度以降の期間	耐用年数経過時に単独更新した場合の費用(A)	長寿命化計画等の効果額(B)	長寿命化等を考慮した場合の費用①=(A)-(B)	経費見込み額(使用可能額)(C)	不足見込み額②=①-(C)
10年間	約344億円	約98億円	約246億円	約172億円	約75億円
30年間	約1,061億円	約303億円	約758億円	約514億円	約244億円

(注:公共施設とインフラ資産の合計)

4.実効性ある管理計画とするためには、定期的な見直しと情報公開が重要

人口構造の変化による市民ニーズの変化や工事価格の上昇などによる更なる費用不足を正しく認識し、**管理計画を適宜・適切に見直すことを求めました**。また、**施設管理や財政の状況、課題・問題点等について市民に分かり易く知らせながら市民の判断を仰ぐということが重要なことから、そのために必要な情報提供**を求めました。

この問題については、我々市民にとって非常に大きな問題なので、引き続き注視してまいります。

菊池よしひと 一般質問

菊池よしひとの公約実現に向けて9月定例会では、令和6年度予算を見据えて公共施設の維持管理について質問をしました。物価高騰のなか、建設費や維持費のかかる箱物行政からインフラの整備、シテセールスの推進、PFIなどの民間事業者の活用など、市政をかえるために会派で協力し、様々な提案をさせていただきますのでよろしくお願い致します。

1.学校トイレの洋式化について

6月議会から引き続きの質問となりましたが、市内の小・中学校にはいまだに洋式便器のないトイレが13箇所もあり洋式化率約55%で、完全洋式化に向けての目標年度も定められていません。私が市議会議員になって初めて一般質問でトイレの洋式化の質問を行って以来、定期的に市に改善を求めてまいりました。保護者の方より児童・生徒がトイレに行くのを我慢してダッシュで家に帰ってくるという声も多数いただいております。1年でも早く洋式化が実現できるよう期待をこめて質問をさせていただきました。

- 質問** 洋式化率及び達成年の目標は。
- 答弁** 令和9年度までに洋式化率70%という目標値を設定している。
- 質問** 洋式化目標達成に必要な予算は。
- 答弁** 現在未改修の校舎は18棟、体育館は8棟です。1工事ごとの内容は異なるので総予算は算出していません。※令和元年度から令和4年度に実施した、学校施設トイレ改修工事の校舎5工事の平均額は、1工事あたり7,200万円程度。また、体育館2工事の平均額は、1工事あたり2,700万円程度でした。

- 質問** 小中学校施設長寿命化計画及び公共施設個別施設計画の見直しはいつ行うか。
- 答弁** おおむね、5年を目安に見直しを検討していきたいと考えています。
- 質問** 教育長に質問しますが、PFI制度を活用してトイレの洋式化を一斉に進めてはどうか。
- 答弁** PFIの実施に当たっては詳細で十分な時間をかけた準備と研究を要することも課題であると考えています。教育委員会では様々な有効な手法を検討し、各学校の実情を踏まえながら洋式化を早急に進められるよう考えていきます。

2.公園の維持管理について

今年は猛暑の影響もあり例年より雑草の成長が早く除草作業を行ってもすぐに伸びてしまふと感じています。屋外に設置される施設は風雨にさらされるため老朽化の進みが早くメンテナンスが課題となっていました。これらの対応策として、公園の除草回数を増やすよう求めるとともに、令和6年度予算では市内の施設がより快適に利用できるよう予算確保ができるよう期待を込めて質問をさせていただきました。

- 質問** 一般的に金属でできた公園遊具の標準使用期間は。
- 答弁** 標準使用期間は15年と言われているが、各部品によって推奨交換期間が異なります。例えばブランコのチェーンや吊り金具は3~5年です。
- 質問** 令和4年度の公園内の樹木剪定、伐採、除草などの費用は。
- 答弁** 約4,600万円です。
- 質問** 除草委託では公園内は年に何回除草を行うか。
- 答弁** 年3回を基本に行っています。
- 質問** Park-PFI、PFI、またはこれらに指定管理者制度を複合させた手法を市民に提供するサービスや品質の向上に、そしてコスト削減の手法の一つとして検討してはどうか。
- 答弁** 導入には課題もありますが、県内では所沢市や志木市がPFIを採用しているので、先進事例を参考にしながら、Park-PFIを含め様々な官民連携による質の高いサービス提供の手法について研究をしていきます。
- 質問** 除草回数を増やしてはどうか。
- 答弁** 今後は除草予算の確保に努めてまいります。



フェイスブック「蓮田の良いところ・悪いところ」にて情報を発信しています。

公式HP 菊池よしひと 検索



菊池 よしひと
蓮田市大字蓮田1032-5
TEL・FAX:048-768-8381

建設経済委員会委員長
議会運営委員



斎藤 斉
蓮田市東1-4-21
TEL・FAX:048-768-4308

民生文教委員会委員
埼玉斎場組合議会議員



武藤 やすし
蓮田市大字黒浜3110-35
TEL・FAX:048-764-2662

民生文教委員会委員
蓮田白岡衛生組合議会議員



はたくにお
蓮田市馬込1-350-8
TEL・FAX:048-764-0998

総務委員会委員
(副議長は慣例により会派に属さないこととなっておりますが、本会派設立の経緯から共に報告させていただきます。)

令和5年9月蓮田市議会定例会は、8月30日から9月29日まで開催されました。その中での一般質問をご報告させていただきます。

斎藤 斉 一般質問

ふるさと納税について

「ひずみ」についていろいろと指摘があるも、人気のあるふるさと納税。昨年度は9,654億円、もうすぐ1兆円。全国1位は宮崎県都城市で何んと196億円も集めました。

三重県四日市市は5,000万円の寄付に対し、8億5,000万円が他の自治体に寄付され8億円赤字、そこで流出した財源の一部でも取り戻すべく思い切った手を打ってきました。ふるさと納税に高い知識を持った専門の任期付職員(5年)を破格の1,000万円の待遇で5月に採用。ふるさと納税対策の本気度が分かります。また、京都市は対策の効果が出て黒字になりました。

私達の蓮田市への全国からの令和3年度の寄付額は827万円と全国順位は1,741市町村中1,652位、県内順位は63市町村中58位。残念ながら寄付していただいた額より他の自治体へ寄付された額の方が多く赤字。毎年赤字が続く流出税額は令和元年度は6,400万円、2年度は8,700万円、3年度は1億1,800万円、4年度は1億4,200万円と年々増大しています。

企業版ふるさと納税で財源獲得に成功している2つの自治体のことが以下大手新聞にありました。群馬県前橋市は企業版ふるさと納税について制度を知らない企業もあるため制度を紹介する市長直筆の手紙を送付、手紙の効果もあって寄付の受け入れ額は令和2年度の10万円から令和3年度は3.8億円と大幅に増加。

茨城県境町の橋本町長も営業に工夫を加え自らトップセールスを行い税収の1割ほどにあたる3億から4億円程度を毎年安定して獲得。平成28年の制度開始以来令和3年度までの累計で17億円集め企業版ふるさと納税では全国3位の成果を出している。また、橋本町長は企業版ふるさと納税はまだ発展途上の制度、我々が分かりやすい使い方のメニューを示すことで寄付企業も増えてくるとみているようです。

質問 特段全国的に名の知れた名産品、特産品のない蓮田市にとっては、企業へのアプローチにより企業版ふるさと納税で大きな自主財源の獲得に成功している前橋市長や境町町長のやり方は参考になりませんか。市長の考えをお聞かせいただけます。

答弁 やりますとはいいかねますが、頑張ります。

武藤 やすし 一般質問

1.黒浜3号緑地整備について

伐採抜根を行った斜面の災害時の安全性について、市の対応が後手になっている現状を市に再認識させ、住民要望に沿って速やかな住民説明と整備を行うよう質疑を行いました。



- 質問** 令和4年度に行った伐採後の部分整備について災害時の安全性は大丈夫か?
- 答弁** 1時間あたり雨量136ミリの降雨強度があり、地震については震度5強には確実に耐えられる。地層部分については工事前と状況の変化はない。
- 質問** 住民への最終的な整備計画と安全性の説明をいつまでに行うのか?
- 答弁** 10月末までに安全性データや植樹を含む整備項目と工事完了時期について文書で説明し、ご意見やご要望を聞く機会を設ける。
- 質問** 今後大雨や地震によって斜面が崩れるなどの状況が起こったら、再調査や補強などの対応を行うのか?
- 答弁** 災害時の対応は責任を持って行う。緑地は市の所有であり市民等に損害が生じた場合は賠償責任を負うなど、市の安全責任を認識し安全管理に努める。

今後の3号緑地整備については責任を持って対応することが表明されました。住民の方々の理解や要望を踏まえて適切・迅速な整備を推進していきます。

2.令和6年度予算編成に向けて

市当局が予算編成の骨格を固めてからでは新たな市民や議会からの要望が入り込む余地がありません。今回は昨年市民意識調査において「要望度が高く、実現満足度が低い」ことにスポットを当て今後のさらなる予算化に向けた質疑を行いました。

- 質問** 大型商業施設の誘致についての市民の要望は常に高い。市として市街地施設のあり方や求められる機能についてもっと外部の知恵も入れながら積極的に計画すべきではないか?
- 答弁** 総合振興計画において商業系などの利用構想を位置付けており、賑わい創出について今後も関係部署と研究していく。

- 質問** 特に集客力の高い上り線蓮田サービスエリアについて、都心旅行者のニーズも周知する専門家も加えた新たな検討チーム組成や外部からのプロポーザル募集を検討してはいかがか?
- 答弁** 総合振興計画に基づき庁内で検討していく。

賑わい創出について現在の「身内の検討」の枠を突き破る新斬な計画が検討される土壌にないことがはっきりわかります。これでは蓮田の新たな発展が見えてこないことから、市として抜本的検討を進めるよう強く働きかけていきます。

- 質問** 小中学校設備の改修・整備は毎年計画に従い行われているがスピードが遅すぎると市民は感じている。PFIなど民間財源を活用して短期間に一括整備する方式を真剣に検討すべき時期に来ているのでは?
- 答弁** 実施速度等の観点から民間活力を含めた施策の検討を行う時期に来ている。

その他、高齢者福祉サービス、再生可能エネルギー利用促進、行政サービスでのDX推進についての質疑では、脱炭素・DXについてはまだまだ建前先行で予算の裏付け不足が明白に感じられました。

3.市長の政治方針について

山口市長の市政への向き合い方について問いましたが、正面からの答えは得られず、時間配分など含め反省大です。

- 質問** 令和7年度末までに最も注力し前進させたい政策は?
- 答弁** 市長選で掲げた政策はどれも重要なもので優劣は答えかねる。
- 質問** 市長として政策の優先順位を判断する場合の根拠とする指標・考え方は?
- 答弁** 市民の要求は人により違う。市政は総合判断であり特定の基準によらない。

重点施策や優先順位についての表明はなされず、今後も市民の声より庁内事情やしがらみなどから市政が決まる風土が続くものと見えます。今後焦点を絞って市政の課題を指摘し、市民の皆さんの後押しを得ながら実現するよう努力してまいります！